

モザンビークで考えたこと

「特別の教科 道徳」の授業例

【実践者】

氏名	齋藤 暢	学校名	宮城 都・道・府・ <u>県</u> 仙台市立南小泉中学校夜間学級
担当教科等	道徳	対象学年（人数）	1年A組（15名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和5年11月27日（1時間）		

【実践概要】

1. 単元（活動）名：世界の人々とのつながり 内容項目 国際理解，国際貢献（C 主として集団や社会との関わりに関すること）		
2. 単元目標 国際社会の一員としての日本人の自覚を持ち，どの国の人々も同じ人間として尊重し合い，世界平和や人類の発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を育てる。 関連する学習指導要領上の目標： 内容項目 国際理解，国際貢献（C 主として集団や社会との関わりに関すること）		
3. 単元の評価規 準	①知識及び技能	
	②思考力、判断 力、表現力等	
	③主体的に学習 に取り組む態度	
4. 単元設定の理 由・単元の意義 （児童/生徒観、教 材観、指導観）	【単元設定の理由】 本主題は，中学校学習指導要領特別の教科道徳，内容項目 C-（18）「国際理 解，国際貢献」の「世界の中の日本人としての自覚をもち，他国を尊重し，国 際的視野に立って，世界の平和と人類の発展に寄与すること」を受けている。 グローバルな相互依存関係にある国際社会においては，国際的な視野に立ち世 界情勢に目を向けながら，国際理解に努めることが必要である。そのためには 自国だけでなく，他の地域や国々の歴史や現在の状況を理解し，尊重する態度 を育てることが求められる。世界平和は人類共通の理想であり課題も多い。そ の現実に関心をもちつつ人間存在の意義や価値についての理解を深めながら，世 界平和や人類の発展に貢献しようとする心情を育てたいと考え，本単元を構築 した。 【単元の意義】	

本単元の意義は、先生の思いに自我関与するようにして、モザンビークの課題について、多面的・多角的に考えさせながら、他国の文化を尊重する心や自ら貢献しようとする心の大切さについて考えるようにしたい。

【児童／生徒観】

インターネット等の著しい発展によって、生徒は国内外を問わず様々な情報を手にする環境にある。他教科等での学習とも相まって、世界中の国々に対して興味・関心が高まってくる時期でもある。生徒が、価値観の異なる他者との共生について考えを深めながら、他国を理解し、尊重することや国際貢献の大切さに気づくように働きかけたい。

【教材観】

本教材【資料 1】は、一見遠い場所の出来事のように思える国際理解や国際貢献について、身近な問題として捉え、「自分事」として考えることのできる教材である。JICA東北主催の教師海外研修でモザンビーク共和国に行った先生が、国や地域の現状を知り、地域格差の大きさを感じながらも、子供たちの幸せそうな笑顔を見て、自分ではどうすることもできない感情となる。先生の思いに自我関与するようにして、モザンビークの課題について、多面的・多角的に考えさせながら、他国の文化を尊重する心や自ら貢献しようとする心の大切さについて考えるようにしたい。異文化を理解するということを通して、国際貢献の在り方について、生徒自身の考えを深めるようにしたい。

【指導観】

本単元の指導に当たっては、生徒が異文化を理解するということを通して、国際貢献の在り方について、生徒自身の考えを深めるようにしたいと考える。指導に当たっては、単元の意義を踏まえ、以下の点について配慮していきたい。

- ① 自我関与するための発問、生徒から出た意見を、さらに深める問い返し発問を工夫する。主人公に自我関与し、相手の気持ちをすることが相手の気持ちや意図をつかむことに繋がるため、意見を深めるための効果的な発問をする。
- ② 生徒同士の相互指名を行い、誰もが発言できる雰囲気をつくる。学習活動の中に、生徒同士の相互指名の発表の場を設けることで、相手の意見や意図を聞こうとする意識が芽生える。仲間の発言を聞いて自分の意見と似ているところ、異なるところなどの視点を持って、話を聞かせる。
- ③ ワークシートを活用し、主発問のねらいに迫るための時間を充分にとり、個への振り返りを行う。自分の伝えたいことを整理するためには、思考する時間が必要である。個への振り返りの時間を充分に確保する。

	④ 役割演技を通して、主人公の気持ちの変化を自分の言葉で表現できるように結びつける。不満から理解へ転換した主人公の気持ちを、自分の言葉で選択し役割演技を通して表現させる。
--	---

5. 単元計画（全 1 時間）

時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用は こちらに記載
1 本時	『世界の人々とのつながり』 国際社会の一員としての日本人の自覚を持ち、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、世界平和や人類の発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を育てる。 内容項目 国際理解、国際貢献	① アフリカのイメージをウェビングで共有する。 ② 教材「モザンビークでー」の範読を聞き、先生の立場に立って問題を話し合う。 ③ 価値の一般化を図る。	・本教材【資料 1】 ・ロイロノートスクール ウェビング ハートメーター ・JaMboard ダイヤモンドランキング

6. 本時の展開

本時のねらい

国際社会の一員としての日本人の自覚を持ち、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、世界平和や人類の発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を育てる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
-------	----------------------------	-----------------	--------

導入 (5分)	1 アフリカのイメージをかいたウェビングを共有する。 【予想される生徒の反応】 ・ 貧しい地域が多い。 ・ 暑くて食べ物が育たない。 ・ 治安が悪くて住みづらい。	1 アフリカのイメージをかいたウェビングを2分で書くよう指示する。	ロイロノートのシンキングツールを使い、モニターに映しておく。【資料2】
展開 (35分)	世界との人々とのつながり 2 教材「モザンビークでー」の範読を聞き、先生の立場に立って問題点を話し合う。 ① 「モヤモヤして頭が痛くなったのは、どのような理由だろう。」 【予想される生徒の反応】 ・ 道路について 道を整備すれば、物資を運搬しやすくなるから。 ・ 住居について しっかりした家を建設すれば、安心した生活が保てるから。 衛生面が向上し、健康的な生活を送ることができるから。 ・ 地面について ガラスを取り除けば、ケガによる危険性が減るから。 ・ 学校について 学校を建設すれば、適切な人数で生徒が勉強できるから。 ・ その他 子供達の笑顔と劣悪な環境のギャップを感じたから。 (補助発問) ダイヤモンドランキングで「教育を上の方に並べます。」といった大学生の話を聞いてどう思いますか？	・ 短冊を用いて、条件、状況を把握させる。 ・ 先生がモヤモヤした理由が何かを考えながら範読を聞かせる。 ・ 街並み、スラム街、学校の3か所に分けて意見を出させる。 ・ 意見が出なかった場合、自分がモザンビークで生活することになったら、どんな気持ちになるかを考えさせる。 ・ 教師用ハートメーターを用いて、全体での話し合いの手立てとする。(全体)	・ 問い返し発問 「物資を運搬しやすくなると？」 「安心した生活ができると？」 ホワイトボードアプリ Jamboard を使い、ダイヤモンドランキングをモニターに映

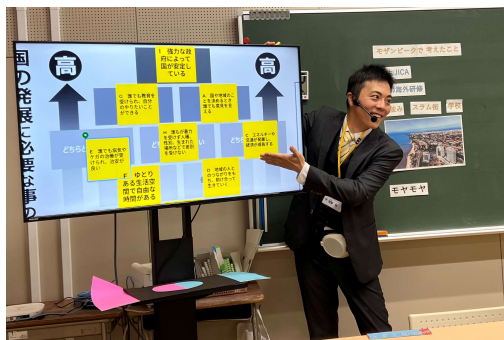
【予想される生徒の反応】

納得できた

- ・教育がすべての基礎だと思う。
- ・最初は下の方だと思っていたけれど、話を聞いて確かにそうだなと感じた。

納得できなかった

- ・暴力，差別を受けない社会を最初に作るべきだ。
- ・もっと先にすることがあるのではないかな。



② 中心発問

「世界のことを理解し，世界の人々のために貢献したいと思うとき，どんなことが大切だと思いますか？」

【予想される生徒の反応】

- ・自分とは違う日々を送っている人がいることを知ること。
- ・自分にできることは何かと考えること。



(補助発問)

「今まであなたはそんなことを考えて

赤…納得できた

青…納得できなかった

- ・自分事として考えさせたあとに大学生の考えを比較させる。
- ・多面的・多角的な視点で考えさせる。
- ・生徒同士の相互指名で意見を交流できるようにする。

教師「納得できた理由を，Aさんお願いします。」

Aさん「私は，△△だと思いました。」

Bさんの意見を教えてください。」

- ・生徒が意見を交流しやすい雰囲気をつくり，発言させるようにする。

- ・先生の気持ちの変化を共有するためにペアで話し合わせる。

- ・役割演技を行い，先生の心の変化(困惑から理解へ)がわかるように演技をさせる。

- ・インタビュアーを担任が行い，先生の気持ちの変化を引き出すように役割演技をする。

し出す。【資料3】

	いましたか、これからどんなことをしていきたいですか？」 【予想される生徒の反応】 ・できるできないは別の話として将来はそういう仕事をしたい。 ・視野を広げて物事を見ること。		
まとめ (5分)	3 価値の一般化を図る。 「他国の人々のために何かしようとするときに、どんなことをしていきたいですか？」 【予想される生徒の反応】 ・他国の文化や歴史などをよく調べて理解すること。 ・お互いの良いところを認め合いながら、他国の人と協力すること。 4 教師の説話を聞く。	・教材から離れて、自分を見つめ考えさせる。 ◆自分の生き方を見つめ、その考えをワークシートに記入している。【ワークシート】【資料4】 ・今後の生き方に生かせるよう、実践意欲をもたせる。 ・教師から「世界の人々とのつながり」の話を聞き、ねらいとする価値を自分のものとしてとらえる。	
評価の視点 【物事を多面的・多角的に考えている様子】 ・主人公の行為について多様に話し合う中で、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしている。 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】 ・自分で物事をよく考え判断していこうとする意欲的な発言や記述が見られる。			
7. 本時の振り返り 最後の教師の説話では、JICA 東北主催の教師海外研修でモザンビーク共和国に行った先生が、国や地域の現状を知り、地域格差の大きさを感じながらも、子供たちの幸せそうな笑顔を見て、自分ではどうすることもできない感情（モヤモヤ）となったことを伝える。 研修後に、モヤモヤした気持ちそのものが「異文化を知ること」とであるという心情の変化により、少しずつモヤモヤが解消されていったことを、生徒に素直に伝えていく。 そして、世界の課題に対する解決策はすぐに見つけれないとしても、目の前の出来事を「自分ごと」として考えることからすべては始まる、それが国際理解そして国際貢献のスタートであることに気付いたときに、先生として、道徳の教材を作成することが、自分にできることではないかという考えが生まれた。本教材を通して、生徒に国際理解について興味をもってもらうことが、国際理解教育の充実につながると考え、資料を作成したという思いを伝えていく。			

8. 学習方法及び外部との連携 ・ ウェビング（イメージマップ）は「広げる」ことを助けるシンキングツールの1つ。 中心においた言葉（中心語）から外側に連想を広げていく。中心語とは結びつかないようなアイデアを生み出すことができる。 ・ Yチャートは「多面的に見る」「分類する」ことを助けるシンキングツールの1つで、Yチャートは3つの視点で考えることができる。 ・ ダイヤモンドランキングは「比較する」「順序付ける」ことを助けるシンキングツールの1つ。 複数のアイデアに優先順位をつけるときに使う。
9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ・ SDGs 世界同時授業 児童生徒が持続可能な社会を実現するために、自分自身に何ができるかを考えることを通して、社会参画するための手がかりをつかみ、発表会を通して、よりよい社会の形成に向けた意欲や態度を身に付けることを目的としたオンライン授業を実施。過去4年間で18か国124学級3200人の児童生徒が参加した。

【自己評価】

10. 成果	・ 児童生徒にとって、一見遠い場所の出来事のように思える国際理解や国際貢献について、身近な問題として捉え、「自分事」として考えることのできる教材を作成することができた。 ・ 教科書の形式で作成ができたことにより、本教材が本校のみでなく、他校にも広く活用されることが期待できる。 ・ シンキングツールを利用し、分類する・比較する・関係づける・順序立てる・構造化するなど、ものごとを批判的、複合的に考える際に、その考えを整理して見えやすい形で表現するため方法を学ぶことができた。他教科の授業でも活用されることが期待できる。
11. 課題	・ 授業づくりの過程において 教材を作成した最初のころは、本時のねらいとして、生徒にモヤモヤとした気持ちについて考えさせたいと考えており、本文の中に、登場人物の先生がそのモヤモヤを受け入れたこと、そして、まずは「自分ごと」として受け止めることが大切であると、先生の思っている国際理解についての価値観を書いてしまっていた。 本来は、道徳の授業を通して、すぐに道徳的な行為が身につくことをねらうものではなく、これからの「日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質」を育てることが目標であり、指導者は「その目標を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意」しなければならない。 これを踏まえたときに、生徒が先生の価値観を理解することがねらいであるなら、教師の一方的な押し付けとなってしまう危険性がある。

	すべての生徒がこれまでの人生で国際理解について見聞きしたわずかな経験や体験をもとに、この教材に触れ、自分の考えを見つめ、これからの生き方について考えることが大切である。一つの答えに導くことを求めるのではなく、授業が始まる前の自分より、授業が終わったあとの国際理解や国際貢献についての自分の考えが高まっていることが道徳科の授業の特質だと考え、教材を再編集することにした。
12. 改善点	・ 上記の課題を踏まえた改善点 本教材の中で先生の考えが前面に出ているのは、生徒の多面的多角的な思考を奪うことが考えられる。そこで、教材を「モヤモヤして頭が痛くなりました。」で終わりにすることにした。授業では、「この先生はどうして頭が痛くなったのでしょうか。」という発問からスタートした。生徒たちは自分たちの生活と重ね合わせ、学校の様子や町の様子が大きく違うことに気づき、それを変えることのできない先生の気持ちに焦点を当てた。 中心発問は、「世界のことを理解し、世界の人々のために貢献したいと思うとき、どんなことが大切だと思いますか。」と設定した。自分とは違う日々を送っている人がいることを知ることとか、自分にできることは何かと考えること、できる、できないは別の話として将来はそういう仕事をしたいと語り出す生徒、視野を広げて物事を見ること等、いろいろと意見が出るように想定した。 そして「今まであなたはそんなことを考えていましたか。」「これからはどんなことをしていきたいですか。」と生徒の自己の生き方について考えを深めさせられるように進めることにした。
13. 学びの軌跡	
14. 授業者による自由記述	・ 道徳の時間は特別の教科（教科だが成績を数値化せず、また専科免許のない特別な教科）となり、現在はほとんどの授業で教科書を利用する為、教材を新たに作り出すということが無くなっていたが、中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（以下解説）第4章第4節第1項「教材の開発と活用の創意工夫」に、「生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用が求められる。」と記載されており、教材を一から作り出すという挑戦をすることを決めた。 登場人物の先生は、私自身である。モザンビーク研修での経験をできるだけ分かりやすく伝えることを一番に考え、読みやすい文章で表現することを心掛けた。生徒にとって、一見遠い場所の出来事のように思える国際理解や国際貢献について、身近な問題として捉え、「自分事」として考えることのできる教材となるように、研修中に感じた思いを率直に表現することにした。 この教材に触れ、すべての生徒がこれまでの人生で国際理解について見聞きしたわずかな経験や体験をもとに、自分の考えを見つめ、これからの生き方について考えることを期待したい。

jica 23 世界の人々とのつながり

モザンビークで考えたこと

文・教師作文

「開発途上国の教育現場を見学したい。」と決意し、海外研修に参加。

モザンビークは、アフリカ大陸の南東の海岸線に位置し、南アフリカ共和国の北東に国境を接している国です。国土面積は日本の約2倍で、約三千万の人々が生活しています。

実は先生、今年の夏休みに①JICA東北が主催する教師海外研修に参加し、モザンビークに行ってきました。

モザンビークに行く前の先生は、正直なところ、モザンビークの場所も言語も生活状況も、よく知りませんでした。そもそもアフリカなんて行ったことがありません。

アフリカといえば、サバンナを優雅に走るライオンのイメージしかなくて、ウエディングという手法でアフリカのイメージを書き出してみたいところ、思い付いたのは「貧困」や「治安の悪さ」といったネガティブな言葉ばかりでした。何を言いたいかという、アフリカの国の人々の生活、自分の生活とは関係のない、いわゆる「たにんごと」として、深く考えてこなかったのです。事前研修では、一緒に研修に参加する先生達と「モザンビークの人にとって大切なこと」をダイアモンドランキンクという手法で考えました。全員が意を出し合い、同意した優先順位に沿って並べられます。その結果、最も重要な意見として「エネルギーや交通が発達し、経済が成長する」が選ばれました。インフラが整備され、経済が発展すれば、多くの人がより豊かに生活できると考えたらどうですか。モザンビーク研修がスタートしてから「希望、困惑」を同時に感じるようなモヤモヤした気持ち。

日本の成田空港からモザンビークのマップ空港までは飛行機を乗り継いで、30時間以上かかりました。到着してすぐに、全身に出よけスプレーをかけました。②マラリア予防のためです。研修中は24時間、蚊に刺されないように注意していました。

空港から宿泊先のホテルまで、バスで移動しました。車窓からモザンビークの街並みを見て最初に感じたことは、地域格差の大きいです。首都のマップ市内には、美しい海と白い砂浜、リゾートホテルが立ち並ぶ場所があります。



しかし、幹線道路を外れると、すぐに舗装されていない、穴ぼこだらけの道になりました。バスが上下に大きく揺れます。これだと歩くようなスピードでしか進むことができません。路上にはゴミが至る所に落ちていました。

モザンビークの現地の方の案内で③スラム街に行きました。トタン板やブロックで作られた簡易的な住居が立ち並んでいます。その間の細い路地を歩いていると、たくさんの子供たちと出会いました。「Bom Dia（ボンデイア／おはよう）」と声をかけると、みんな笑顔で手を振ってくれました。



① JICA
独立行政法人国際協力機構

日本の政府開発援助（ODA）を元

に、開発途上国の国際協力を行っています。

② ハマダラカという蚊を介してマラリア原虫に感染することや発症する病気のこと

③ 治安が悪い、衛生状態がよくない等といった、多くの問題を抱える居住地域のこと。



空き地でサッカーをしていたり、タイヤを器用に転がしていたりと、仲間たちと楽しそうに遊ぶ姿が、目に焼き付いています。

しかし、地面をよく見てみると、砂に交じって小さなガラスの破片が落ちていたのが分かりました。子供たちはそれを全く気にしていません。サンダルや裸足のまま、元気に走り回っていました。やり場のない気持ちがかみ上げてきて、胸が苦しくなりました。

翌日、モザンビーク第三の都市のベイレという街に行きました。ベイレは2019年3月に発生したサイクロンで被災し、壊滅的な被害を受けた地域です。日本の④ODAにより建設された学校を訪問しました。この学校の全校児童生徒は約6000人です。一度に全員が教室に入ることはできないので、午前、午後、夕方、3部制で授業が行われていて、子供たちも時間に合わせて登校したり、下校したりするそうです。

小学校4年生の授業を見学させてもらいました。教室に入って愕然としました。10名ぐらいの児童が床に座って授業を受けていたんです。他にも、本来は2人用の机を3人で使うため、わざとノートを斜めに傾けて、机のスペースを無駄にしないようにしながら勉強していました。モザンビークは1クラスの児童生徒数が約60名です。多いところだと110名になるそうです。それでも、教室の広さは日本と同じくらいです。

2022年の資料によると、モザンビークの出生率は4.8%、平均年齢はなんと18歳。国民の二人に一人は子どもです。（日本は1.26%、4.8歳）確かに今思い返すと、この研修中に街を歩いている人の多くが若者だったような気がします。

写真の女子児童の将来の夢は「学校の先生」になることで、数学を勉強することが楽しいと話していました。喜びと希望に満ちた姿を見ているうち、目に涙が浮かんできました。

モザンビークの⑤NGO団体に所属している大学生達に「モザンビークの人にとって大切なこと」をダイアモンドランキンクで考えてもらいました。事前研修で先生が考えた優先順位とどのような違いがあるのか確かめたかったからです。代表の大学生が話してくれた内容を紹介します。

「優先順位を考えるのは、とても難しいことです。なぜかというと、どの内容もモザンビークにとって、今すぐに改善したいところからです。ただ、何をしようとしても、最低限の教育を受けられる国にならないと何も成し遂げられないと思います。だから教育は上の方に並べます。」

大学生の他にも、モザンビークの現地の先生達や職業訓練校の先生に、ダイアモンドランキンクを考えてもらったんですが、全ての方が教育の優先順位を上位にっていました。

モザンビークにきて一週間が経ち、日本に帰る日が近づいてきました。この研修を通して、貧困やゴミ問題、生活レベルのことなど、直面している課題を目の当たりにしました。教育の重要性も改めて考えさせられました。これから手を付けられようか分かりませんが、モザンビークを知れば知るほど、モヤモヤして頭が痛くなりまし

考えよう
先生が、モヤモヤして頭が痛くなったのは、どのような理由からだろう。

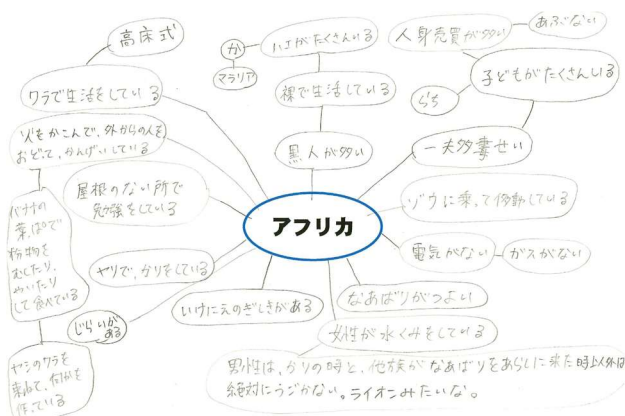
自分を
見つめよう
他国の人々のために何かをしようとするときに、あなたが大切にしたいことはどのようなことだろう。



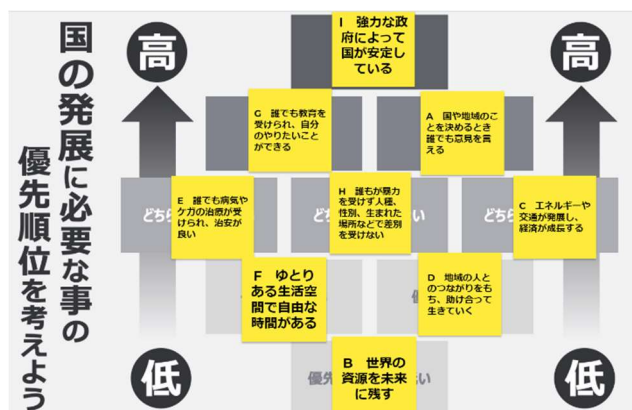
④ 政府開発途上国に対する資金や技術の協力を目的とした協力のこと。

⑤ 国・全民間団体、非政府組織、国内・国際の両方がある。non-governmental organization

【資料2 ウェビング】



【資料3 ダイヤモンドランキング】



出典：「豊かさの開発」（2016）.

特定非営利活動法人 開発教育協会

「何のための開発？」ダイヤモンドランキング

【資料4 ワークシート】

23 モザンビークで考えたこと (教科書 p.1~4) ←

學習日 年 月 日

組	番	名前	←
1	1	山田 太郎	
1	2	山田 次郎	
1	3	山田 三郎	
1	4	山田 四郎	
1	5	山田 五郎	
1	6	山田 六郎	
1	7	山田 七郎	
1	8	山田 八郎	
1	9	山田 九郎	
1	10	山田 十郎	
1	11	山田 十一郎	
1	12	山田 十二郎	
1	13	山田 十三郎	
1	14	山田 十四郎	
1	15	山田 十五郎	
1	16	山田 十六郎	
1	17	山田 十七郎	
1	18	山田 十八郎	
1	19	山田 十九郎	
1	20	山田 二十郎	
1	21	山田 二十一郎	
1	22	山田 二十二郎	
1	23	山田 二十三郎	
1	24	山田 二十四郎	
1	25	山田 二十五郎	
1	26	山田 二十六郎	
1	27	山田 二十七郎	
1	28	山田 二十八郎	
1	29	山田 二十九郎	
1	30	山田 三十郎	
1	31	山田 三十一郎	
1	32	山田 三十二郎	
1	33	山田 三十三郎	
1	34	山田 三十四郎	
1	35	山田 三十五郎	
1	36	山田 三十六郎	
1	37	山田 三十七郎	
1	38	山田 三十八郎	
1	39	山田 三十九郎	
1	40	山田 四十郎	
1	41	山田 四十一郎	
1	42	山田 四十二郎	
1	43	山田 四十三郎	
1	44	山田 四十四郎	
1	45	山田 四十五郎	
1	46	山田 四十六郎	
1	47	山田 四十七郎	
1	48	山田 四十八郎	
1	49	山田 四十九郎	
1	50	山田 五十郎	
1	51	山田 五十一郎	
1	52	山田 五十二郎	
1	53	山田 五十三郎	
1	54	山田 五十四郎	
1	55	山田 五十五郎	
1	56	山田 五十六郎	
1	57	山田 五十七郎	
1	58	山田 五十八郎	
1	59	山田 五十九郎	
1	60	山田 六十郎	
1	61	山田 六十一郎	
1	62	山田 六十二郎	
1	63	山田 六十三郎	
1	64	山田 六十四郎	
1	65	山田 六十五郎	
1	66	山田 六十六郎	
1	67	山田 六十七郎	
1	68	山田 六十八郎	
1	69	山田 六十九郎	
1	70	山田 七十郎	
1	71	山田 七十一郎	
1	72	山田 七十二郎	
1	73	山田 七十三郎	
1	74	山田 七十四郎	
1	75	山田 七十五郎	
1	76	山田 七十六郎	
1	77	山田 七十七郎	
1	78	山田 七十八郎	
1	79	山田 七十九郎	
1	80	山田 八十郎	
1	81	山田 八十一郎	
1	82	山田 八十二郎	
1	83	山田 八十三郎	
1	84	山田 八十四郎	
1	85	山田 八十五郎	
1	86	山田 八十六郎	
1	87	山田 八十七郎	
1	88	山田 八十八郎	
1	89	山田 八十九郎	
1	90	山田 九十郎	
1	91	山田 九十一郎	
1	92	山田 九十二郎	
1	93	山田 九十三郎	
1	94	山田 九十四郎	
1	95	山田 九十五郎	
1	96	山田 九十六郎	
1	97	山田 九十七郎	
1	98	山田 九十八郎	
1	99	山田 九十九郎	
1	100	山田 一百郎	
1	101	山田 一百零一郎	
1	102	山田 一百零二郎	
1	103	山田 一百零三郎	
1	104	山田 一百零四郎	
1	105	山田 一百零五郎	

問：世界のことを理解し、世界の人々のために貢献したいと思ったときに、最初にどんなことが大切だと思いますか？

[illegible]

問：今日の授業で「世界の人々とのつながり」について考えたことを書きましょう。

٤٣
٤٣
٤٣

今日の一言

授業のはじめは（ ）と思っていたが、

授業が終わって（ ）と思った。

★振り返ってみよう←

1 教材について、興味をもって読みましたか？ ^①	A B C D ^②
2 自分の考えを伝えることができましたか？ ^③	A B C D ^④
3 友達の考えを聞くことができましたか？ ^⑤	A B C D ^⑥
4 授業の内容について、深く考えることができましたか？ ^⑦	A B C D ^⑧